

松井繁先生に出会えて

小西 敢

098-5792 浜頓別町日の出 浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

平成7年にオープンした浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館へ、卒業後直ぐに勤務することになり、最初の大きな仕事は、浜頓別町で開催されたラムサール条約国内登録湿地関係市町村会議だったと思います。3年に一度、ラムサール条約締約国会議の1年前に国内のラムサール条約登録湿地の市町村長が一同に会して、登録地の現状や問題点、解決策など話し合うもので、各地域持ち回りで行なわれている会議です。文字通り右も左もわからない状況の中、スタッフの一人として、携わりました。この時、基調講演を行なって頂いたのが、当時、日本白鳥の会の会長だった松井繁先生でした。松井先生との初めての出会いでした。まだ、白鳥観察に日が浅い私にとって、初めてお聞きする事ばかりで、たいへん興味深かったのを覚えています。私の師匠である、山内昇さんの大親友であり、先輩として尊敬している方だとお聞きし、滞在期間中のお世話をさせて頂きました。短い滞在期間中にも、白鳥の事をいろいろ教えていただきました。

次に先生にお会いしたのは、平成8年に浜頓別町で行なわれた日本白鳥の会研修会の時だったと思います。浜頓別町に念願の温泉が湧き、新しい宿泊施設が完成しました。その第1番目の利用者として日本白鳥の会の方々に使ってもらおうと、山内さんと松井先生が企画したとお聞きしました。総勢40名を超える参加者で、大盛況の中、各会員の方々との交流ができました。私は山内さんの弟子として、初めて会員のみなさんに紹介いただきました。日本白鳥の会の研修会によって、全国にこんなにも白鳥の事を大切に思っている人たちがいると実感しました。クッチャロ湖の白鳥を見られた事と会員同士が元気に集った事もあり、みなさん笑顔でした。この事がたいへん印象的で、松井先生を筆頭に気持ちのやさしい方々が集っている会だと思いました。ただ、この時はまだ、私がこの会の事務局を仰せつかうとは夢にも思いませんでした。

それは先生からの突然のお話でした。松井先生が会長を降りるとの事にも驚きましたが、事務局をしてもらえないかとのお話に二度、驚きました。まだ、白鳥を観察して3年にも満たない私が全国の白鳥に精通した方々のお役に立てる事などあるのかと、しばらく悩みましたが、山内さんが事務局長という立場となるとお聞きし、また、米子の神谷さんも事務局として協力いただく話もあり、少し気が楽になりました。そして、良い経験になるかと思いつつも事務局をさせて頂きたく事としました。平成10年の総会の席で、松井先生が隣にお座りになって「心配しなくてもいいから、頼むね」と耳打ちされたのを今でも覚えています。

その後、事務局として、各地域の研修会に参加することになりましたが、松井先生からの事務局のお話がなければ、こうして各地を訪れる事もなかったかと思っています。

また、白鳥に携わる人にとっては、憧れの地であるロシアのレナ川でのオオハクチョウ調査へも参加させていただく機会を作って頂きました。このような貴重な経験をさせていただいたのも松井先生のお力添えによるものでした。

平成11年にクッチャロ湖のラムサール条約指定10周年記念式典を開催する事になりました。松井先生のご協力により東アジア地域ガンガモ類重要生息地ネットワークのワークショップを同時開催する事ができました。浜頓別町では初めての国際的な会議となり、国内外から、ガンガモ類の研究者がクッチャロ湖に集いました。この式典の際に環境省西北海道地区自然保護事務所長より、水鳥観察館の名誉館長として、松井先生が任命されました。それ以来、毎年、秋の白鳥初飛来を松井先生へご連絡するのが私の楽しみの一つとなりました。

お忙しい病院の勤務のなか、白鳥の撮影に訪れ、山内さんの家で、各地の白鳥の話や夜が更けるまでお聞き出来たのも思い出に残っています。まだ、若輩の者の私に対しても、とても親切に接して頂きました。私の結婚や長女が誕生した際にご連絡をすると奥様と一緒にたいへん喜んでいただきました。クッチャロ湖へお越し頂きお会いするにしがたって、いつの間にか、山内さんが私を呼んでいるように「かんちゃん」と先生から呼ばれるようになったのも親しみを持って接していただく先生の人柄によるものかと思います。

私は白鳥に携わってまだ10年と短いものの、松井先生と出会えた事によっていろいろな経験をさせて頂きました。松井先生を紹介して下さった山内さんに感謝すると同時に松井先生と共に白鳥を観察する時間が持てた事をたいへん光栄に思います。今はただ、生前のご功績を偲び心よりご冥福をお祈りいたします。